

岸 和郎：京都に還る_home away from home

2016年1月28日（木）～3月20日（日）

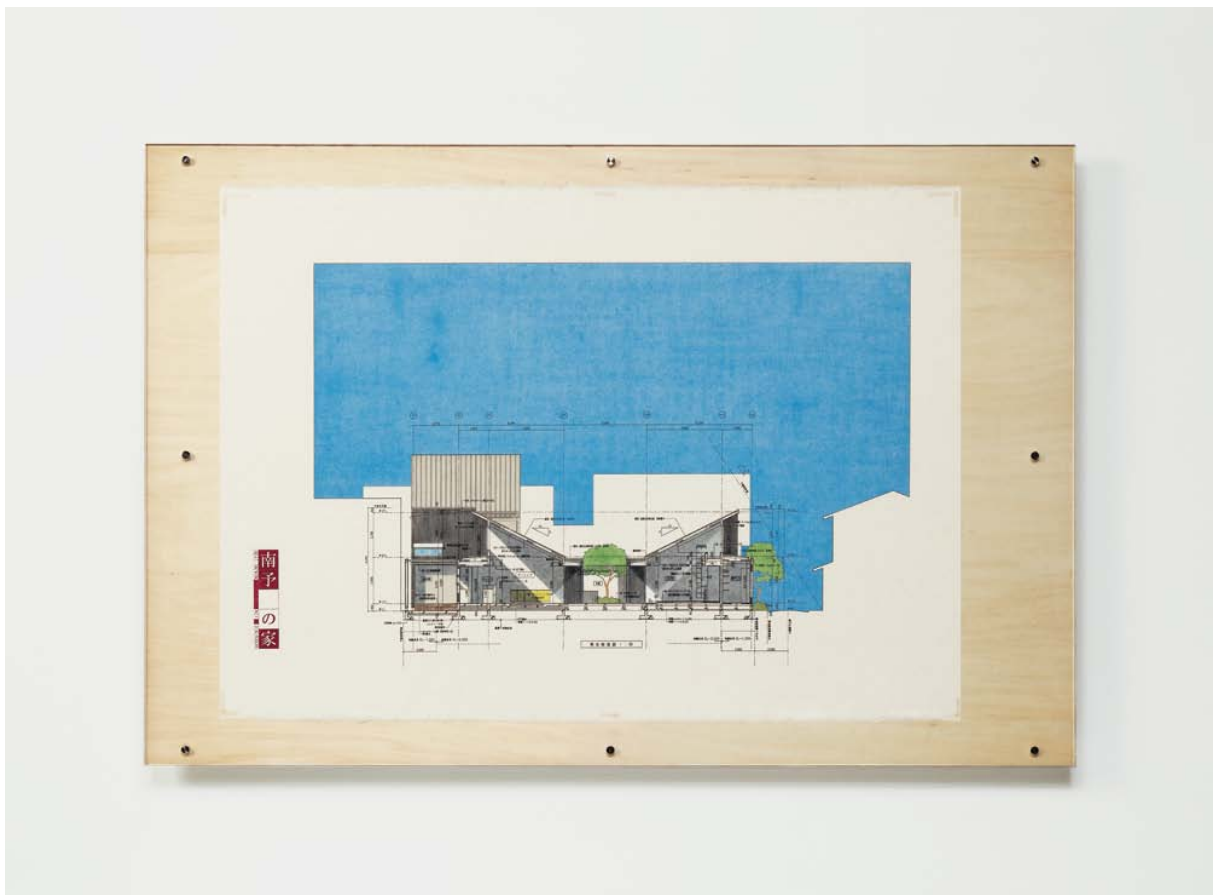
会場＝TOTO ギャラリー・間（東京都港区南青山1-24-3 TOTO 乃木坂ビル 3F）

休館日＝月曜・祝日（2月11日のみ）※2015年度より日曜日も開館しています。

開館時間＝11:00～18:00 入場無料

講演会：2016年1月29日（金）18:30～

会場＝イイノホール（東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング 4F）事前申込制



「THU-TONG HOUSE 2002（2001年設計当時「南予の家」）」のドローイング photo：木奥恵三

展覧会について

自身のプロジェクトをドローイングと模型のみでプレゼンテーションした「PROJECTed Realities」会期：2000年8月2日～9月30日）から15年、TOTOギャラリー・間で2回目となる岸和郎氏の個展「京都に還る_home away from home」を開催します。

横浜で生まれた岸氏が1981年に京都に事務所を構えてから30年あまり。京都の歴史や伝統の重圧に押しつぶされそうになりながらも、建築家としての立ち位置を模索し、自身が京都で設計することの意味を問い続けてきました。合理性や秩序を追求するモダニストを標榜してきた岸氏は、今や、確かな歴史感に立脚した日本的な美を継承しつつ、場所の特性を丁寧に読み解くことのできる現代建築家の第一人者としての評価を確立。拠点の京都のみならず、関西、東京、海外へとその活躍の場を拡げています。

また同時に、京都芸術短期大学（現・京都造形芸術大学）、京都工芸繊維大学、京都大学と、3つの大学において教鞭を執り、多くの建築家を輩出してきました。大学では、設計・デザインの教育のみならず、一建築家として、場所、歴史、文化、都市、自然等々、あらゆる側面からの建築との向きあい方を自身のことばで語る等、設計することの意味を伝えてきました。

本展では、建築家として、また教育者として活動している氏のパラレルな活動の軌跡を、2016年現在の切断面として紹介します。京都をメインとした数多くのプロジェクトに加え、これまで携わってきた3つの大学でのアクティビティ、さらには東京のプロジェクトから近作まで、模型やドローイング、映像等、さまざまな切り口で展示します。

また会期中、茶道、華道、造園など、京都文化の第一人者との対談によって岸氏の建築観をより掘り下げるギャラリートーク（全5回）も予定しています。（詳細は「関連プログラム2」を参照ください。）

展覧会情報

展覧会名（日）	岸和郎：京都に還る_home away from home
展覧会名（英）	WARO KISHI：京都に還る_home away from home
会期	2016年1月28日（木）～3月20日（日）
開館時間	11:00～18:00
休館日	月曜・祝日（2月11日のみ） ※2015年度より日曜日も開館しています。
入場料	無料
会場	TOTOギャラリー・間 〒107-0062 東京都港区南青山1-24-3 TOTO 乃木坂ビル 3F TEL=03-3402-1010 URL=www.toto.co.jp/gallerma/
交通案内	東京メトロ千代田線 乃木坂駅3番出口徒歩1分 都営地下鉄大江戸線 六本木駅7番出口徒歩6分 東京メトロ日比谷線 六本木駅4a番出口徒歩7分 東京メトロ銀座線・半蔵門線・都営地下鉄大江戸線 青山一丁目駅4番出口徒歩7分
主催	TOTOギャラリー・間
企画	TOTOギャラリー・間運営委員会 特別顧問：安藤忠雄 委員：岸和郎／妹島和世／内藤廣／エルウィン・ピライ
協力	京都大学岸研究室／京都工芸繊維大学木下研究室／京都造形芸術大学城戸崎和佐研究室／ 大阪工業大学朽木研究室／市川靖史／森山 茜
後援	（一社）東京建築士会／（一社）東京都建築士事務所協会／（公社）日本建築家協会関東 甲信越支部／（一社）日本建築学会関東支部

建築家紹介

展覧会コンセプト文

「京都に還る_home away from home」

京都に還ろう、と決めた。そうしようかと考え始めたのが何時だったかは覚えていないが、最後の決心の瞬間だけははっきり覚えている。1994年が明けて暫く経った頃に、「紫野和久傳」の設計を依頼された時だった。それは中村外二工務店との協働、大徳寺真珠庵と高台寺和久傳がクライアントという、40代中頃の建築家にとっては重すぎるに十分なプロジェクトであった。

それまで自分は現代建築家だと思っていた。現代建築家というのは今日コンテンポラリー的な建築をつくり出すことが責務で、それが自分の求めていた建築の姿だった。ところが敷地は大徳寺横、しかも「日本的な」空間であることを求められる。一体そのようなプログラムからどの様にすれば今日コンテンポラリー的な建築が導き出されるのか、皆目見当が付かなかった。そんな人生初めての試みの中、戸惑いと混乱の中で決心したのが「京都に還る」ということだった。

しかし、そんな「京都」はどこに在るといえるのか？

その問い、すなわち還るべき「京都」を探すところから自分の1990年代は始まったのだ。それ以降、プロジェクトの場所は東京、さらに国外へと拡がり、むしろ京都から縁が遠くなっていったのは皮肉な展開だったが、「京都」への想いはむしろ逆に強くなる。

京都で建築家としての活動を始めた1981年以降、同時にその京都の大学でも教鞭を執り、京都芸術短期大学—(現在の京都造形芸術大学)、京都工芸繊維大学、そして京都大学という3つの大学で、設計・デザイン教育と研究活動にも関わり続けてきた。

1981年から現在まで変わらず、建築家としての設計実務と大学での研究教育活動とを同時に併行してきたことになる。しかもそのことを取って意識したことさえないほど、私にとっては自然で、どちらも欠かせないものだった。

2016年、ようやく気付く。

建築家としての展開と呼応するように、教育研究についても環境が変化しながらも継続できたこと、これはほかの建築家のキャリアと比較してみても本当に稀な、それも幸せな機会を与えられた、ということに、だ。

「京都に還る_home away from home」

それは物理的に京都に帰還するといったことではない。

この京都という都市に合計すると40年以上住みながら、20年以上が経過した1990年代になってようやく「京都」に関わることを決心した。しかもそれが「京都に還る」ことだとわかるまで、決心から更に20年ほどが必要だった。2016年の現在ようやく「京都に還る」、この都市に帰還することの意味がわかりかけてきたところなのだ。

この展覧会はそんな「京都」から時に逃げたり、時に利用したりしながら建築に関わり続けてきた私の現在であり、作品を展示するだけではなく、私という建築家のアクティビティの有り様全てをここに持って来ようとした。言い換えると、この展覧会は私自身の展覧会であると同時に、私に関わった人達の協働の成果でもある。模型製作や展示を手伝ってくれた京都造形芸術大学、京都工芸繊維大学、京都大学、そして教えてはいないのに快く協力してくれた大阪工業大学の現役の先生や学生諸氏、私が大学という場で出会い旅立っていった卒業生達、それに私の事務所であるケイ・アソシエイツのスタッフの協力があってこそ可能になったのであり、最後に感謝を捧げたいと思う。

岸 和郎

建築家プロフィール

岸 和郎（きし わろう/Waro Kishi）

1950年横浜市生まれ。1978年京都大学大学院修士課程建築学専攻修了。1981～93年京都芸術短期大学（現・京都造形芸術大学）、1993～2010年京都工芸繊維大学にて、現在は京都大学大学院にて教鞭を執る。UCバークレー校、MITなど客員教授等を歴任。

「日本橋の家」で日本建築家協会新人賞受賞（1993年）の他、国内外において受賞多数。

主な作品に、「日本橋の家」（1992年）、「紫野和久傳」（1995年）、「深谷の家」（2001年）、「ライカ銀座店」（2006年）、「東京国際空港ターミナル商業ゾーン」（2010年）、「曹洞宗佛光山喜音寺」（2012年）など。

『プロジェクトド・リアリティーズ』、『重奏する建築』（ともにTOTO出版）ほか、著書および作品集を国内はじめ各国より多数出版している。



協力者プロフィール

市川靖史（いちかわ やすし/Yasushi Ichikawa）

1968年東京都生まれ。1991年京都工芸繊維大学意匠工芸学科卒業。1993年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科博士前期課程造形工学専攻修了。1996年～2007年京都工芸繊維大学工学部造形工学科助手。現在、京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科デザイン・建築学系助教。

1998年ころより写真家として活動を始める。2001年第8回京都現代写真作家展優秀賞、2002年第9回京都現代写真作家展優秀賞、2005年ギャラリーPRINZ(京都)にて個展「Kata-log」など。現在は主に現代芸術、工芸、建築の分野を中心に、写真によるアート・ドキュメントを広く手掛ける。

森山茜（もりやま あかね/Akne Moriyama）

1983年生まれ。2008年京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科（博士前期課程）建築設計学専攻修了。2010年コンストファック芸術大学テキスタイル学科修士課程修了。2008年よりスウェーデン・ストックホルムに拠点を置き、住宅やオフィスのカーテンから屋外でのインスタレーションまでテキスタイルを素材として空間と関わる作品を制作する。主な作品に「0 邸のカーテン」（京都・2009）、「Cubic Prism」（テキサス州オースティン・2013）など。

関連プログラム 1

岸 和郎講演会「京都に還る_home away from home」

日時	2016年1月29日(金) 17:30開場、18:30開演、20:30終演(予定)
会場	イイノホール(東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4F)
定員	500名
参加費	無料
参加方法	事前申込制: 申込期間内にウェブサイトよりお申し込みください。 URL= www.toto.co.jp/gallerma/ 抽選の上、2016年1月22日(金)までに結果をご連絡いたします。
お申込期間	2015年12月1日(火)~2016年1月11日(月・祝)

関連プログラム 2

ギャラリートーク 「空間術講座 21 京都に還る」

岸 和郎氏が京都と深くかかわる各界の第一人者を招き、京都文化の真髄および建築との関係性について語り合います。

開催日時

2016年1月31日(日)	「メディアと京都」	中谷 日出(NHK解説委員)
2016年2月7日(日)	「庭と京都」	尼崎 博正(京都造形芸術大学環境デザイン学科教授)
2016年2月14日(日)	「茶と京都」	木村 宗慎(茶道芳心会主宰)
2016年2月28日(日)	「茶室と京都」	中村 義明(中村外二工務店代表)
2016年3月6日(日)	「花と京都」	池坊 専好(華道家元池坊 次期家元)

会場: TOTO ギャラリー・間

時間: 各回 14:00~16:00 事前申込制/入場無料

詳細は TOTO ギャラリー・間ウェブサイトにて随時掲載いたします。

関連書籍

『WARO KISHI 岸 和郎の建築』

著者	岸 和郎
発行日	2016年1月下旬(予定)
体裁	B5判変型(190×250)並製、392頁、和英併記
発行	TOTO出版(TEL=03-3402-7138 URL= www.toto.co.jp/publishing/)
概要	岸 和郎氏の30年以上にわたるキャリアの中から厳選した39作品を紹介する作品集。

ギャラリートーク ゲストプロフィール

中谷 日出（なかや・ひで）

NHK解説委員（芸術文化、デジタル関連担当）

神奈川県生まれ。東京芸術大学大学院 美術研究科修了。

広告プランニング、広告映像アートディレクターとしてフリーで活動後、平成3年NHKへ第1期キャリア採用で入局後、1994年～MIT（マサチューセッツ工科大学）派遣、その後、NHKスペシャル「人体・脳と心」のアートディレクション、NHKロゴマークデザイン、長野オリンピック国際発信公式映像映像監督、ドラマ「DREAM TV 200X」監督などに携わる。1999年6月NHK解説委員（芸術文化、デジタル関連担当）に就任。2000年3月～デジスタナビゲーターを務め現在にいたる。Gマーク（グッドデザイン賞）の審査委員などにも取り組む。

尼崎 博正（あまさき・ひろまさ）

1946年兵庫県生まれ。1968年京都大学農学部卒業。1989年京都芸術短期大学教授。同学学長、京都造形芸術大学副学長を歴任、現在は京都造形芸術大学教授、日本庭園・歴史遺産研究センター所長。

1992年日本造園学会賞、2007年京都府文化賞功労賞、2014年京都市文化功労者など受賞。

主な著書に『植治の庭—小川治兵衛の世界』（1990年）、『茶庭のしくみ』（2002年）、『市中の山居 尼崎博正作庭集』（2006年）、『七代目小川治兵衛』（2012年）など。

作庭は国際花と緑の博覧会「むさしの山野草園」で日本造園学会賞を受賞、京都迎賓館庭園の監修のほか多数。

木村 宗慎（きむら・そうしん）

1976年愛媛県宇和島市生。神戸大学卒。少年期より裏千家茶道を学び、1997年に芳心会を設立。京都・東京で稽古場を主宰しつつ、茶の湯を基本に執筆や、雑誌・テレビ番組をはじめ 展覧会などの監修・コーディネートを手がける。

これまでに、2005ミラノサローネ「空庵」や、フランクフルト工芸美術館「TEEHAUS」の展示など国内外のデザイナーや、クリエイターとのコラボレートも多い。著書に『利休入門』、『茶の湯デザイン』など。

2008年、日本博物館顕彰。2011年、監修した茶室「傘庵」がJCDプロダクトオブザイヤーグランプリ、JCDデザインアワード金賞を受賞。2012年、宇和島市大賞。2015年、著書『一日一菓』（新潮社刊）がグルメマン世界料理本大賞 PASTRY 部門 グランプリを受賞。同年、愛媛県文化・スポーツ賞。

中村 義明（なかむら・よしあき）

1946年京都市生まれ。1968年立命館大学経営学部卒業し中村外二工務店に入店。1984年株式会社興石を設立、和風照明、デンマーク家具製作輸入を行う。1997年より中村外二工務店の代表となる。

茶道文化振興賞（2010年）受賞。

主な施工に、「大阪万博日本庭園内茶室」（1970年）、「ニューヨーク ロックフェラー邸」（1972年）、「松下幸之助邸茶室」（1973年）、「フィラデルフィア日本書院」（1976年）、「伊勢神宮茶室」（1982～1985年）、「神慈秀明会祭事棟」（1984～1986年）、「京都迎賓館主賓室座敷」（2006年）、「東京国際空港国際線旅客ターミナル4F 江戸小路」（2012年）、「俵屋旅館」「菊乃井」「和久傳」各店舗新築・改修工事（1973年～現在）など。

池坊 専好（いけのぼう・せんこう）

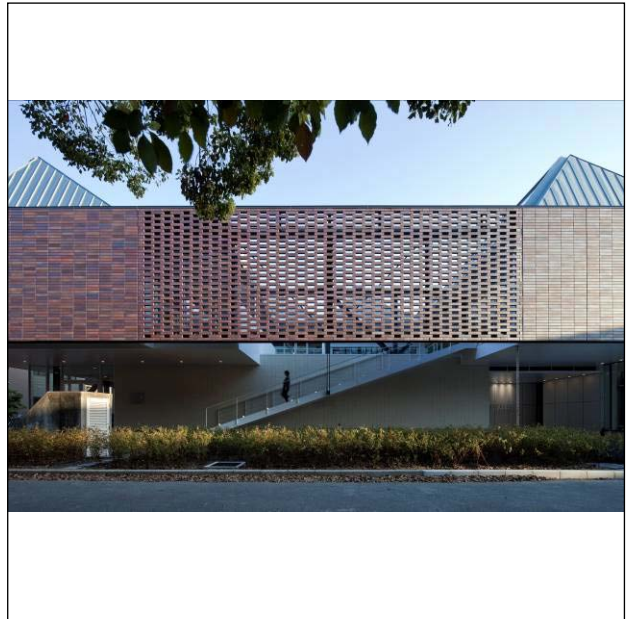
華道家元池坊次期家元

小野妹子を道祖として仰ぎ、室町時代にその理念を確立させた華道家元池坊の次期家元。2015年に専好襲名。京都にある紫雲山頂法寺（六角堂）の副住職。いのちをいかすという池坊いけばなの精神に基づく多彩な活動を展開。

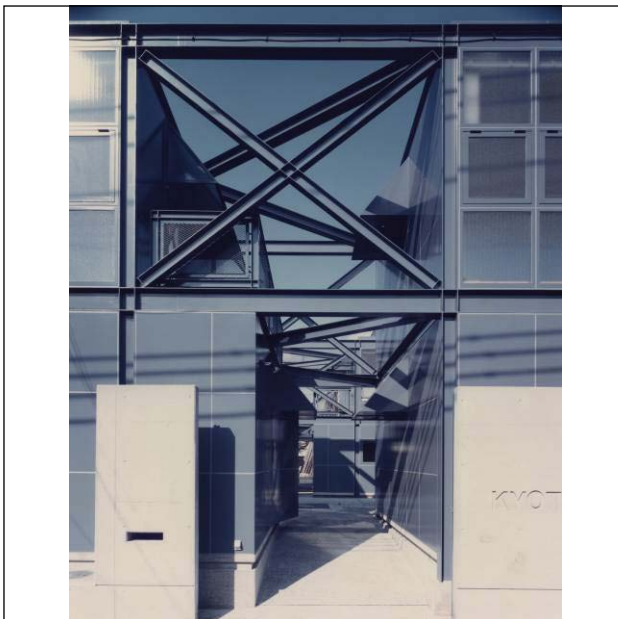
アイスランド共和国名誉領事でもある。2013年にはハーバード大学においてワークショップを、またニューヨーク国連本部において世界平和を祈念し献花を行なう。京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科博士後期課程修了（学術博士）。



[1] 「HU-TONG HOUSE 2002 (2001年設計当時「南予の家」)」のドローイング photo:木奥恵三



[2] KIT HOUSE (日本、京都府/2010年)
photo:小川重雄



[3] 京都芸術短期大学高原校舎 (日本、京都府/1982年)
photo:新建築社写真部



[4] 山野井の家 (日本、兵庫県/2014年)
photo:小川重雄



[5] GLA近畿会館（日本、大阪府／2013年）
photo:小川重雄